

ワットさんの今日の一首(2021年)

信念の衣一つ着てガンジーかマザーテレサのごとく生きたかりしに(1/1)

夫逝きて9年目の冬冷たくて つがい妬まし温き人恋し(1/17)

体重を左右に振り分けのっしのし 年寄りの証拠 残月が笑う (1/17)

先見えぬ不安の中に置き去られ 日は塊で過ぎゆく 無力(1/25)

イタリアに住みたし夢想捨てきれず 猫にマリオと名付け春待つ (2/2)

ベランダに舞い来る雀じっと見る 猫と私の愉快的融和(2/10)

ゴロゴロとのおど鳴らす猫撫でている 来世はこの絵逆かも知れぬ(2/17)

亡夫(つま)からの言づけありと残月が 我に付き来る冬の日温し(2/24)

歯を差してホカロン貼ってマスク付け 迷わず一歩老いの朝5時(3/4)

娘に何も教えなかった母の悔い ハンバーグにはナツメグ入れて(3/11)

言伝てに返事託さん明けの前 どこに置いたかわが恋ごころ(3/19)

為すことのなき雨の午後 河野裕子を懐かしみ読む(3/25)

慕われて国府浜さん逝く花筏 みなで見送る地の果つる地まで (4/4)

国府浜さーん、いまどのあたり?ひと休み レモンサワーのお代わりしてね(4/11)

しわしわの年季入りの手遠き日に むすんでひらいて手を打ったその手(4/18)

数えれば君が初七日アベマリア 歌って名を呼ぶ目つむりまた呼ぶ(4/25)

北国から自肅の日々に好物の氷下魚(こまい)届いてジローと拍手(5/2)

足一本持て余す日よ神経痛 一人で生きると決めて久しく (5/9)

「さみしいね」つぶやけば「ニャーオ」いとしき猫と愛でる夕焼け(5/17)

梅雨入りに君の名を消す住所録 我が名もいつかばさりと消される (6/4)

夫あらば夏の日かげる 6時まえ 散歩に行こうと玄関で待つ(6/11)

チュンチュンと子らは餌食むこの平穩 数がどうした今日の感染(6/19)

魂の灯火管制一年半 意志も望みも友さえ断たれて(6/26)

聖火の灯いま災いの灯と呼ぶか 走るにまかせ笑みなき点火へ(7/2)

ブルージュのカップで珈琲のむ朝は もう訪うことなき街一つ消す(7/11)

一本にたわわに咲いて百日紅 数多の慚愧一つずつ聞く(7/27)

5時時報ワイン飲もうよ夏の夕 カンツォーネ歌い独り祝宴(8/8)

空腹を喜ぶわれは飽食の恥すべき民よ 飢餓を知るなし(8/16)

副虹を連れて七色空またぐ 時間はまだある焦せらずに行け(8/26)

還暦までせめて生きたし祈る友 祈り届かず無念の新盆(9/2)

我逝けば泣くのだろうか孫娘 老いとは卑屈真っ赤な夕やけ(9/11)

訪うたびに紙袋詰め待つ母は 迎えに来たと決めてホームで(9/18)

地球無限どこへでも行け子らを出す 気付けば一人この家に一人(9/25)

ノボタンを愛した母は一生に 一度も子らにごめんと言わず(10/3)

玄関で手を付き猫がわれを待つ 父待つ子らがいた日懐かし(10/24)

ふた月の余命淡々と告げる友 身支度とっくに済ませたという(11/1)

「寂しい」とふいに呟く秋雨が心の芯まで染み込む午後は(11/9)

ディナーにする？何度聞いても表情を変えない猫の答えはイエス(11/17)

朝六時光る満月ロンドンは夜九時亡夫も同じ月見る(11/25)

バス一台のがして一人次を待つ 情けなき身にビル風の舞う(12/3)

あと先はわからぬ友も数枚を持ち来て互いの遺影をえらぶ(12/10)

丸くなって君に抱かれて眠りたい 孤閨の二文字あまりにさぶし(12/18)

除夜の鐘 被いたまえや去年の厄 あたらしき年 笑顔多かれ(12/31)